



ワンポイント・アドバイス

今回は高齢の患者さんへの対応について述べます。

高齢者の場合、生理検査でいちばん気をつかわなければならないのは、やはり身体に負荷のかかる検査です。ベッドに寝て検査をする超音波や脳波検査などはほとんど問題がありませんが、肺機能や負荷心電図検査では、注意しながら危険のない程度で最大限に患者さんに努力してもらわなければなりません。そこで、無理をしないで個々の患者さんが最大限

まで努力しているかどうかを見極める眼を養わなければなりません。また種々な病気を持っているために、ある患者さんでは、検査前にそれを把握して検査を進めなければ、危険域まで負荷してしまうことになりかねません。

例えば一般的に行われているマスター二階段負荷心電図検査は、多くの危険性を持っています。負荷中は普通心電図をモニターせずに行うために、無痛性狭心症の場合などは特に危険性が高いのです。また脚力が低下していたり骨折しやすかったりするために十分注意して、階段で転倒しないように手すり

などを持たせて安全に行うようにします。一方、正確で安全な負荷が必要な場合は、エルゴメーターやトレッドミルを使用すれば、負荷中に心電図や血圧をモニターし、さらにレスピロモニターを使用し、呼吸商などを観察しながら検査を行うことができます。安静時の心電図検査でも、若い人に比べて高齢の患者さんでは皮膚のしわのため従来から使用されている胸部吸着電極の装着がうまくできないことが多いのですが、最近開発された接着性ディスプレイ電極を使用すれば、衛生的で少々動いても取れないので

有用です。これは小児の暴れるときや、乳癌手術後の胸部誘導時にも応用できて便利ですが、これは四

肢電極も同じ電極を使用しなければならず、一患者一回の使用であるため電極着脱に時間がかかり高価につくことが難点です。また高齢者においては、検査に対しての不安感や恐怖感で緊張し検査がスムーズにできない場合があるため、優しく説明し協力してもらうようにします。そのほか、検査に当たっては検査用ベッドは高いために乗り降りには十分に気を付け、踏み台や簡単に高さを調節できるベッドを使用するのもよい方法です。

このようにできるだけ細かい気配りが必要です。

(阪大病院中検 澤崎憲夫)

生理検査…患者への対応の コツ(3) 高齢者への対応

超音波診断

日本超音波医学会 編集

●B5 頁806 図360 写真793

1988 定価16,480円(税込) 円400

本書の特色

超音波診断法は日常臨床の診断面において、不可欠の検査法として定着している。

本書は、日本超音波医学会が責任をもって編集した超音波診断に関するバイブルとも言うべき書。

単に超音波診断の最近の進歩を網羅するのみならず、学会制定の用語、ラベリング、診断基準なども盛り込んであり、辞書代わりにも使えることを意図している。

医学書院 1113-91 東京・文京・本郷5-24-3 ☎(03)817-5657(販売部直通) 振替東京7-96693)